

令和4年度第1回逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 議事概要

- 開催日時：2022年（令和4年）7月4日（月）15時00分～16時00分
- 開催場所：市役所5階第2会議室
- 出席委員：伊藤裕夫委員、富岡幸一郎副委員、山崎稔恵委員、奥野花代子委員
- 欠席委員：なし
- 事務局：文化スポーツ課 香山課長、中川副主幹、浅川主事、中山主事補
- 会議の公開・非公開：公開
- 傍聴者数：0名
- 議題：1 令和3年度事業に関する評価の対象、方法について
2 令和4年度事業について
3 その他
- 資料：【事前送付資料】
 - 資料1 令和3年度事業に関する評価報告書（案）（一部抜粋）
 - 資料2 令和2年度事業に関する評価報告書【当日配付資料】
 - 次第
 - 名簿
 - 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則
 - 資料3 今後の予定について
 - 資料4 令和3年度事業実績額及び令和4年度事業予算額
 - 資料5 令和4年度事業について
 - 資料6 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う文化プラザホール開館状況
 - 参考資料1 逗子アートフェスティバル2021事業報告書、パンフレット
 - 参考資料2 令和2年度対象 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書（一部抜粋）

■内容

1 開 会

定数確認

資料の確認

2 議 事

（1）令和3年度事業に関する評価の対象、方法について

<議長（委員長）>

事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1、2をご覧いただきたい。資料1は、令和2年度の報告書の様式に沿って記載した報告書の一部抜粋である。「3 総括」を除いた箇所を送付している。「1 趣旨」及び「2 調査・評価の対象と方法」については、昨年度から大幅に変更がないことを想定して記載した。P3「4 基本計画と対象事業の関係」については、昨年度同様の様式としている。P4～P16「5 評価シート」についても、昨年度同様に事業内容を評価シートに全て落とし込んでいる。

以上、委員の皆様には、報告書の様式や評価の仕方について、ご協議いただきたい。また、令和3年度の事業について、ご質問等あれば合わせてお伺いする。

<議長>

はじめに、報告書の様式や評価の仕方について審議し、その後令和3年度の事業についてご意見いただきたい。評価報告書の様式や評価の仕方について、修正等のご意見、質問があれば願います。

<議長>

様式が昨年度と同じため、前年行った事業については前年実績も併せて記載されていると分かりやすい。

<事務局>

承知した。

<議長>

次に、令和3年度の事業の主なもの、大きく変更があったものについて、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

資料1に入る前に、まずは資料6をご覧ください。

【資料6】

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う、逗子文化プラザホールの開館状況をまとめたものである。

緊急事態宣言及び市内の感染状況等に伴い、8月18日～9月30日まで臨時休館とした。臨時休館中も、予約済みの利用については時間制限等を設けて利用可能とした。また、開館中も、市内感染状況等を鑑み、利用制限や人数制限を設けて運営した。

開館中は様々な対策を行い、安心して利用できるように運営している。入館時の検温や消毒、会場の換気や会場内の距離の確保、参加者の特定等を行った。

これらの対策に伴い、令和2年度同様、市は指定管理者に対して「公共施設協力金」を交付した。予約キャンセルに伴い令和3年度中に還付した利用料金、感染症拡大防止に要する備品及び消耗品費を勘案し、361,000円交付した。(資料4)併せて、コロナ禍における新たな鑑賞等の機会の提供と利用拡大を図るため、光回線敷設及びオンライン配信環境整備に対する予算を増額し、昨年度中に工事を行った。

ホール自主文化事業については、コロナの影響による利用料収入減のため、事業を精査し、22事業(うち1事業中止)としている。内容は資料1 P17のとおりである。

続いて、資料1から令和3年度の主な事業を説明する。4頁「5評価シート」をご覧ください。

【資料1】

4頁

(1) ①…【ホール自主文化事業】の取組みが主である。

アート便については、コロナの影響を踏まえ、開催可能な2メニュー和太鼓と落語の2メニューを提供した。市立小中学校全校で開催することができた。

(1) ②…【逗子アートフェスティバル2021の開催】【市民による文化事業の後援、協力】【文化に関する講座の実施】を挙げた。逗子アートフェスティバル2020の開催【市民による文化事業の後援、協力】【文化に関する講座の実施】を挙げた。

【逗子アートフェスティバル 2021 の開催】

10/15～11/14、12/3～5 の二期制で開催、全 22 企画、6,586 人が参加。参考資料として、実行委員会の事業報告書（案）とパンフレットをお配りしている。市内を回遊できるようシェアサイクルと連携した。また、逗子アートネットワークは広報チームの活動が充実した。

【市民による文化事業の後援、協力】【文化に関する講座の実施】

コロナの影響が実施件数に影響しているが、実施可能なものから少しずつ再開している。

5 頁

(1) ③…【ZAF2021 自由企画、ボランティア活動】を挙げた。

昨年度に引き続き自由企画を公募し、10 企画が参加した。

※新型コロナウイルス感染症の影響…中止した事業や、事業の変更内容等を記載。

7 頁

(2) ①…【ホール自主文化事業】の取組みが主である。

(2) ②…【ZAF2021 開催を目的とした、逗子アートネットワークの活動】を記載した。逗子アートネットワークは共同代表制とし、3 名が代表を担った。新たなメンバーも募集した。また、ワークショップやミーティング、広報等の手段として、オンラインを積極的に活用した。

(2) ③…【ZAF の継続、ZAN の新規のメンバーの新規募集】と、トモイクフェスティバルについて記載している。

8 頁

※新型コロナウイルス感染症の影響…中止した事業や事業の変更内容等を記載。

9 頁

(3) ①…【ホールによる鑑賞事業の拡充】を記載している。

(3) ②…【ホール自主文化事業】【逗子アートフェスティバル 2021】について記載している。

10 頁

(3) ③…【ホール自主文化事業】を記載した。

※新型コロナウイルス感染症の影響…中止した事業や事業の変更内容等を記載。

11 頁～12 頁

(4) ①…旧郷土資料館の活用及び、地域の文化財について記載した。

また、地域の文化財の一つについて、有識者による調査を行った。

(4) ②…【自然の回廊プロジェクト推進事業（経済観光課）】【逗子フィルムコミッション（経済観光課）】【社会教育講座（社会教育課）】について記載した。新たに、オープンした観光協会が管理する市のワーケーションホームページに、全回廊を市内周遊モデルコースとして掲載した。

(4) ③…【((2) ②再掲) 逗子アートフェスティバル 2021 開催を目的とした、逗子アートネットワークの活動】と【ホール】の事業内容を記載した。ZAF2021 の開催に当たっては、市

やホール指定管理者からの財政的支援はなかったが、ホールは会場提供や連携事業を行う等して協力した。

※新型コロナウイルス感染症の影響…中止した事業や事業の変更内容等を記載。

13 頁

(5) ①…【ホール】による情報発信を記載した。

(5) ②…【情報ネットワーク】【市民による文化事業への後援、協力】を記載した。

14 頁

(5) ③…【返子フォト事業】について記載した。ホールで行っていた返子フォト展に代わり、市庁舎市民ホールで通年写真展示を行っている。

15 頁

(6) ①…【ホール】と旧郷土資料館の活用、地域の文化財等について記載している。

(6) ②… コロナ禍でのホールの取組みについて記載した。

(6) ③… ホールの取組みを再掲している。

※新型コロナウイルス感染症の影響…中止した事業や事業の変更内容等を記載。

<議長>

資料1を(1)から(3)の前半、(4)から(6)の後半に分けてご意見いただきたい。前半の事業について、質問等があればお願いします。

<奥野委員>

昨年度もコロナの影響はあったかと思うが、前年度に比べ事業数にどの程度変化があったか。

<事務局>

元々ホールが計画していた事業から考えると、コロナの影響を考慮せざるを得ない。隣接の施設がワクチン会場でなくなったこともあり、一般利用の増加を見込んでいた計画であったが、夏のコロナ感染拡大も新規の予約に影響した。既存の予約に関しては感染対策を万全にしたうえでの実施が可能であったため、令和2年度と比較すると、多少実施件数は戻ってきているが、完全に戻ったとは言えない状況である。

<議長>

コロナ禍の対策については調査・評価委員会の評価よりも指定管理者の評価にかかってくるため、指定管理者の生の声が聞けると良い。実際非常に苦労していると思うので、現場の声を活かしていくことで今後の発展に繋がると思う昨年は一昨年の経験を活かした活動ができたかと思うが、今後への教訓等を反映できる機会があると良い。

<富岡委員>

4頁②に「団塊の世代が地域に戻り、地域文化活動に参画していけるような機会を設定していきます」とあるが、実際団塊の世代についてはどのような状況なのか。文化事業、文化に関する講座に関わる人は増えているか。

<事務局>

文化に関する講座という意味では、社会教育講座での関わりが一番強いのではないかと思う。コロナ禍か否かに関わらず、サードエッジ層の参画の取り組みとして社会教育課が行っている。講師としての参画も含め、正確な数字は不明だが、一定数参加しているものと思われる。コロナの影響という

観点では、高齢者が外出を控えているため、文化施設だけでなく、体育施設等各方面でも高齢者の戻りが悪いとの意見が多く聞かれる。

<富岡委員>

ずし楽習塾の活動が盛んに行われているようだが、団塊世代というかなり上の世代という印象であったが、参加者はどの世代が多いのか。

<事務局>

高齢者向けの内容や参加が多い。楽習塾自体が30年ほど前に社会教育課で発足され、他団体同様、次の世代が育ちにくいというのが課題である。次の担い手がないということもあり、ずし楽習塾は令和3年度をもって解散した。逗子まちなかアカデミーは存続している。社会教育講座についても、新しい方が加わり継続されている。

<議長>

団塊世代は熱心な方が多いと思うが、各団体引継ぎが難しく、担い手不足が大きな課題となっている。

<事務局>

どこまで次の世代につなぐことができるかが課題である。

<議長>

現在80代くらいの方々が10年程前熱心に活動されていたこともあり、団塊世代が入り込む余地がなかったように思う。

<事務局>

ずし生涯学習推進プランとして社会教育講座を実施する際は、アンケートを実施し、満足度等を調査しつつ、その後の講座の内容に活かしている。

<山崎委員>

次の世代が育っていないとあったが、数字で見るとコロナの影響から参加者が戻ってきているように見受けられる。特に若い世代が戻ってきているように思うが、オンラインでの参加等、効果はどのようになっているのか。

<事務局>

公共施設の配信設備の設置が進んだこともあり、オンラインの活用が増えている印象はある。しかし、実際各地域においてどの世代の参加が戻ってきているのかは計りきれていない。リモートワーク等が増えたこともあり、ワーケーションとして逗子に来る、または住居を移す人も増えている。

<議長>

葉山芸術祭のフォーラムの司会をした際に、逗子・葉山ともに30代から40代の方が多く熱心に話を聞かれていた印象がある。以前に比べてこのような若い層が多くなった気がする。団塊世代のみ取り残されている可能性もある。

<事務局>

そういった世代の陰になっているのかもしれない。

<山崎委員>

若い世代が入ってくることで、アートの質が求められることがある。

<事務局>

今年4月に逗子アートフェスティバルキックオフミーティングを行った。オンラインと対面のハイブリッド開催だったが、会場には想定を超える参加があり、対面での開催が求められていたのだと感じた。20代から40代の参加が多く、アート系の職業に就いている人等様々な思いで参加に至ったようだった。今後はオンラインも併用しつつ、幅広い年齢層が参加できる仕組みづくりを検討していく。

<議長>

今回ホール事業に共催と記載されているものが多いが、どこかの共催事業であるのか教えてほしい。

<事務局>

基本的には、文化プラザホールとイベント実施団体との共催である。

<議長>

ホールと共催することで、使用料を減免したりしているのだろう。市民と一緒に作り上げるという趣旨ならば、その取組みが増えているのは個人的に良いことだと思う。逗子文化プラザホールのように地域密着型のホールとしては、プロとのみ事業を実施するのではなく、市民が行う企画をピックアップし、時にプロの力も借りながら良いものにしていくことも重要であり、それが市民の機運醸成にも繋がると思う。

文化資源の活用について、文化資源は増えてきているが、活用の方法が見えてないように思う。市としてワーケーション等に活用しても良いのではないか。現実的に、アーカイブスよりも活用の可能性があるように思う。

<事務局>

文化資源は、行政が活用に向けて予算的な部分も含めて検討していく必要があると思う。ワーケーションやサテライトオフィス等が、どの程度行政で設置・整備できるかによるが、公共施設全体の老朽化が進んでいるため、単体での整備は難しい状況ではある。このような状況で、今後資源を活かすとなると、市民団体等の協力も必要となってくる。

<議長>

行政だけでなく、観光協会等が進めていくのも一つの方法だと思う。逗子の魅力の発掘や活用だと考えれば、行政が投資する価値はあると思われる。

<事務局>

現状は活用できていない状況である。今後どのように整備していくのか検討していきたい。

<議長>

ワーケーションに使えると良い。

<富岡委員>

文化資源に関して、逗子フィルムコミッションの問合せ件数が今年は何合せ 162 件、撮影件数が前年度が 97 件とあるが、これは経済観光課が主導しているのか。

<事務局>

経済観光課が主管課である。

<富岡委員>

件数の増減はいかがか。

<事務局>

細かいものを含むと、実際の件数は増えていると思う。

<富岡委員>

鎌倉もフィルムコミッションを立ち上げた。ほぼ民間に委託した形で行っているが、個々で対応しているところも多い。

<事務局>

逗子市のフィルムコミッションはシティプロモーションの一環で平成 18 年に開始した。かなり縮小してはいるが、経済観光課で引き続き対応している。

<山崎委員>

逗子アートフェスティバルでメンバーを募集し、30名増えたということで良いか。

<事務局>

逗子アートフェスティバルに参加したことがきっかけで、逗子市に転居してきた方も何人かいる。また遠方からアートフェスティバルの作品制作に参加した人もおり、ある程度認知度が向上していると考えられる。

<山崎委員>

そういった人は、地域と関わりを持ちたい人なのか。

<事務局>

地域と関わりたい方も多い。その手段の一つとしてアートフェスティバルに参加されている印象がある。コロナ禍で、リモートワーク等が増え、より地域に目を向けることができ、アートフェスティバルへの参加につながった人もいる。

<議長>

逗子の文化資源については、評価委員会というよりも文化振興基本計画策定・推進会議（以下「策定・推進会議」という。）になってくると思うが、従来とは違った逗子の持つポテンシャルとして、コロナ禍においてオンライン等が活用されたりと、若い担い手の増加考えられる。それらも踏まえ、ワーケーションの活用等について、新しい文化資源の活用法として、策定・推進会議で検討していただきたい。

事務局から今後の予定について説明をお願いします。

<事務局>

資料3をご覧ください。

・自己評価まで記載した評価シート（案）を送付するので、「委員会の評価」に記載するためのご意見を事務局にご提出いただく。こちらについては、8月19日（金）頃までにご提出をお願いしたい。

事務局は、次回会議までに、委員意見のまとめ（案）を作成し、事前送付する。

・次回会議は、【9月21日（水）10時から】で確定。

<議長>

議題2「令和4年度事業について」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料4、5をご覧ください。

（説明内容）

・資料4は、文化振興事業における、市の令和3年度実績額及び令和4年度予算額を記載している。1①ホールの令和4年度指定管理料は、利用料金収入の増を見込んだほか、支出の削減を検討して算出した。2ホール整備事業は、公共施設整備計画に基づき、工事8件を予定している。

・資料5は、今年度予定している事業一覧である。1・2は先程ご説明した内容である。3①策定・推進会議では、逗子市文化振興基本計画改定に向けた検討を2年かけて行う。

・逗子アートフェスティバル2022プレ企画として『海のほとり美術館』を開催した。

・逗子市文化祭は、2年間延期した第70回を今年10月に開催予定である。

・ホールのアート便については、落語と和太鼓を予定している。

<議長>

以上の説明について、質問等があればお願いします。

文化振興基本計画の改定については、基幹計画のスケジュールと合わせて、現在の計画を一年延長し、時間をかけて検討される予定である。

逗子アートネットワークのメンバーがドクメンタ 15 に招待されたとのことだが、誰が招待されたのか。

<事務局>

CINEMA CARAVAN が、「CINEMA CARAVAN AND TAKASHI KURIBAYASHI (栗林隆)」として招待された。

<議長>

逗子海岸映画祭は実施したか。

<事務局>

コロナ禍ではあったが、実施した。栗林さんの作品も一部展示した。

<議長>

以上について、質問等があればお願いします。

<全員>

特になし。

(3) その他

<議長>

本日の会議を通して、意見等あればお願いします。

<全員>

特になし。

<事務局>

参考資料2をご覧ください。「逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書」について、毎年度教育委員会が作成しているが、この点検・評価は本委員会が行うことになっている。昨年度同様、評価報告書の意見を基に事務局で内容をまとめるので、そこにご意見いただきたい。報告の期限は8月中を予定しているため、次回の書類送付時に同封し、内容についてメール等でご意見をいただきたい。意見を反映させた修正案については、後日お送りする。また、最終の内容確定については、委員長の一任とさせていただきたいがよろしいか。

<全員>

異議なし。

<事務局>

ご意見のご提出は、8月19日(金)頃までを予定している。

<議長>

以上をもって、すべての議事を終了する。

3 閉 会

以上